

～華やかな着こなし～ 注目のランウェイ

まがたま

令和5年 3月 第136号
社会福祉法人上口福祉会
障害者支援施設まがたま
〒699-0201
松江市玉湯町玉造1649-2
TEL0852-62-2535
FAX0852-62-2586



▲イラスト：石田

コロナ禍を乗り越え、第8回まがたまファッションショーを沢山の方に会場いただき、盛大に開催しました。
会場のアーチを潜り、自身一杯にレッドカーペットを一步一步踏みしめ、ステージに立って衣装を披露していただきました。
また、今回の会場の装飾はご利用者様に日中活動で製作していただきました。レッドカーペット横のお花も皆さんに植えていただき、ご利用者様と職員が一丸となって準備をして開催することが出来ました。

また芋煮や、生産品販売を行い、こちらも大盛況でした。
今回、第8回まがたまファッションショーのメイン担当を務めさせていただき、開催に向けて紆余曲折してきましたが、事故等もなく無事に終えみなさんの笑顔や歓声が、溢れており嬉しく思っております。そして、一つに向かって目指すみなさんの姿にとっても感動しました。
今後ご利用者様、ご家族様、地域のみなさま、職員、沢山のひと盛り上がりで行くと思っております。(生活支援員 松坂正之)



日本では、マスクの着用は個人の判断に委ねられるようになり、コロナウイルスに関するさまざまな制限が緩和傾向にあります。
まがたまでもレッドカーペットを歩くときは利用者様も職員もマスクを外し、ありのままの姿で登場しました。利用者様と職員がマスクを外して行事に参加する機会というのは、この3年間の中でも少なかったのではないのでしょうか。マスクを外して素敵な衣装に身を包んだ姿は、やはりみなさん、いつもより輝いており、笑顔も満点でした。
ご来場いただいたお客様に手を振りながら堂々と歩く姿は、まさにファッションモデルのようでした。素顔が見える生活が、もっと身近になるといいですね。
(生活支援員 松岡隼矢)

地域を想う

私たちにできること

施設のすぐ近くに鎮座する「珍宝(ちんぼう)神社」。
知る人ぞ知る、穴場スポットとなつていますが、ここ近年、行き交う人も少なく鳥居が激しく劣化してしまいました。
永年にわたって支えてくださる、ふるさと玉湯に、何か恩返しのできないか、今の私たちにできることを考え、鳥居の改修と社社の環境整備をさせていただくことになりました。



昨年夏、園芸班を中心に鳥居を新設。また、周辺の草刈りや、安全委員会を中心に、全職員で行ないました。
この場所と、まがたまの果樹園は赤道でつながっており、道の整備も併せて行なっています。
地域の一員として、引き続き私たちは地域活動を積極的に進めます。たまゆの皆様と共に歩んでまいります。(課長 松本啓介)

まがたまグループホーム「彩花」(萌木)付近に来待石で作られたモニュメントがあります。
そこでは、散乱したお賽銭、風化した看板が見えていて寂しく感じるとの声が上がっていました。
今回、その声に答えるべく、まがたまをあげて看板改修工事及び賽銭箱設置を行いました。また、賽銭箱に集まったお賽銭は、玉湯神社に奉納することが決まっております。安心してお参りできる環境になったと感じました。
見た目も良くなり、今まで以上にたくさんの方に集まって頂き、それが今後地域貢献というパトーンになり、地域の方、旅行者の方が集まって頂けるような場所になることと願っています。みなさまも足を運んで下さい。
(生活支援員 烏田龍治)



編集後記

今年度最後の機関紙となりました。気付けば冬の寒さも和らぎ春らしい陽気が続いていますね。委員としてイラスト中心に関わらせていただきましたが、1年を通して少しでも彩りを添えることができていたら嬉しく思います。(石田裕雅)



QRコード

- 錦織優気 藤原未季 松本啓介 今井宏幸
- 松岡隼矢 石田裕雅 小室唯奈



苦情受付

～コロナクラスターを経験して～

始まりは突然



看護師 早戸 規江

今回は苦情がありませんでした。
今度も皆様からの苦情やご要望を真摯に受け止め、安心・安全な施設づくりを努めてまいります。

それは、最も恐れていたまがたま内での利用者への感染。始まりは突然でした。
12月30日利用者1名、職員1名から発覚したコロナウイルスの感染。その日の検査で数名発覚。数名から始まった感染は、3日後の検査で、利用者14名・職員11名への感染が判明。気が付いた時にはかなりのクラスターでした。

その後も感染は広がっていき、止まることのない感染。コロナウイルスの感染力の強さを目の当たりにし、このウイルスとの戦いに終わりは来るのだから、残された職員もいつかは感染するのではなかったかという不安で支援にあたりました。
不安や疲労がある中でも協力し合い支援につながったこと、何とか乗り越えることができたという経験は、今後の糧になったと思います。
見えないウイルスとの闘いもいつかは終わりが来ます。終息するのに約1か月を要してしまいましたが、感染された利用者様が比較的軽症ですぐに回復されたことは幸いなことでした。
今回このような経験したことで分かった点は、思いのほか大量のゴミが出ることも、やはり初期段階での対応が重要なこと、様々な問題点が明らかになりました。今回感じた問題点を改善できるように取り組んで参りたいと思います。

当広報に掲載された写真につきましては、プライバシーに配慮し、予め、掲載の同意を得ています。

思い伝える日 ～ドキドキはいつまでも～



2月14日(火)にぼたん班・れんげ班と合同のお楽しみ会を開きました。毎月開催をしていた会でしたが、1月はコロナウイルス感染症の流行により実施できませんでした。コロナも落ち着き、今月は無事に開催する事ができ、当日はバレンタインデーということもあり、チョコプレートケーキやお菓子、好きな飲み物をご用意して楽しんで頂きました。みんな同じ場所に集まり、和気あいあいとされる姿はとても清々しくて、良い時間となりました。これからも、生き生きと活動して頂けるように、お楽しみ会も盛り上げていきたいと思っております。
(生活支援員 松本康之)



温かいほほえみ ～ 私たちを見守る存在～

まがたまの施設本館から2百メートルの位置にある果樹園には、利用者様や職員が植えた果物が育てられています。またそこには「あゆみ地蔵様」があり、いつも私たちを見守って下さっています。晴天の日、散歩に出かけると、お地蔵様の前掛けや帽子が綺麗に新しくなっていました。どんなときでも「笑顔」で見守って下さる、「このお地蔵様。私たちも「笑顔」と「感謝」の気持ち忘れず、日々過ごしたいですね。綺麗になったお地蔵様は、より「こやかな笑顔」に見えました。
(副班長 錦織優気)

2月14日はバレンタイン献立ということで、ハート型コロケとチョコブラウニーを提供しました。ハートの可愛さと、チョコの甘さに気持ちが和む昼食になりました。3月3日のひな祭りは女の子のすこやかな成長と健康を願う、「桃の節句」の行事です。施設では鮭の散らし寿司を提供しました。花型の人参やデザートの花から少しづつ春を感じられるように工夫しました。利用者がたくさん食べて頂き、作りがいがありました。
(管理栄養士 川西美希)



バレンタイン献立



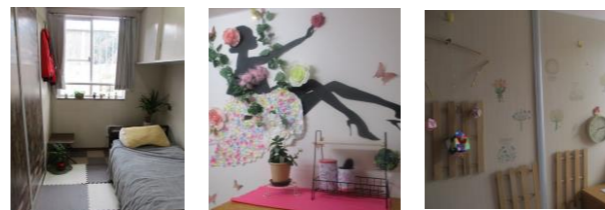
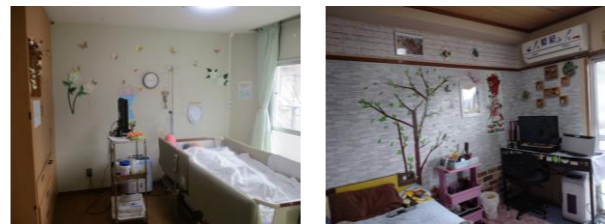
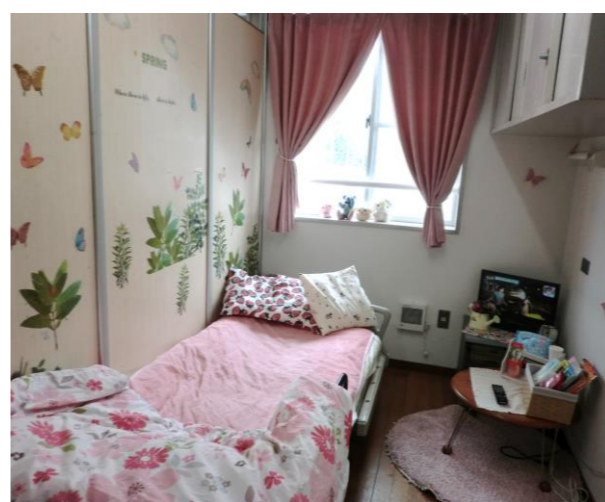
ひな祭り献立

健康を願う「桃の節句」 給食便り

ここ最近、朝は霜が降り、あたり一面が朝陽に照らされて、キラキラ輝いています。日中も気温が上がリ、花粉症の方はには少々苦痛も感じるときですが、まさに春の到来を感じます。さて、まがたま園芸班の畑では、菜の花が見ごろ、また食べ頃を迎えています。菜の花の花言葉には「小さな幸せ」「希望」「活発」「豊かさ」など、元気なイメージの言葉がたくさんあります。元氣いっぱい「黄色」に、心も体もパワーをもらえそうです。
(課長 松本啓介)



～見てよし！食べてよし！～ 幸せの黄色い花



自分だけの城！

その人の好きな生活、快適で豊かな生活を実現するための一つに、居室コンテストを毎年開催しています。利用者様ひとりひとり個性や趣味、好きな雰囲気などを生かし、普段生活しているお部屋を快適にやすらいでいたただく空間作りになればと毎年開催しています。各所属の班からエントリーしていただき、そのお部屋を審査員が見て審査します。居室コンテスト開催期間に、利用者様がどのような雰囲気のお部屋を好まれるかお聞きし、利用者様と職員が協力してお部屋作りをしていきます。

今回も「その人らしさ」と「居住環境としての機能性」を十分に盛り込んだ素敵なお部屋作りをされました。それぞれ個性を生かした空間となっており、世界に一つだけのお部屋が出来あがりしました。そして3月15日は表彰式。斎藤施設長より、受賞者の皆さんに、賞状と記念品が贈られました。まさに「世界に一つだけのお部屋」。素敵な空間に、たくさんの幸せが訪れますように。
(生活支援員 桑原奈々)

あゆみ桜と共に

これまででもそしてこれから先も



四季折々のイベント、開設記念、元号の改元、職員の入職など、様々な記念日に、私たちは桜の苗木を植樹してきました。

平成二〇年の春にはじまったこの取り組みは今も続き、現在敷地内には一〇〇本を超える桜が、毎年春に美しい便りを届けてくれています。

以来私たちは、総称「あゆみ桜」と命名し、どんなときも、数々の桜と共に歩んでまいりました。

見る人を癒し、いつの時代も愛される桜のように、地域に必要とされ、いつまでも愛される施設作り。そして「ふるさとの桜の名所」を目指しています。

(副班長 錦織優気)



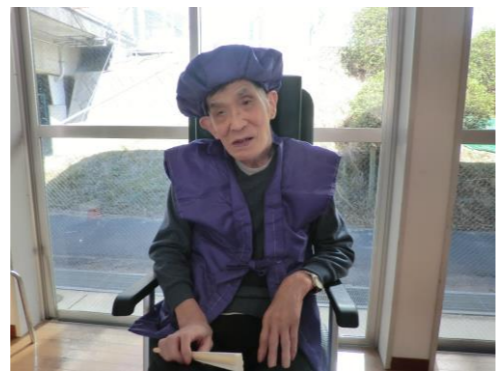
敷地内に植えられた2百本近い桜。あゆみ桜が今年も開花し、まがたまに暖かなさくら便りが届きました。

屋外は公園、屋内は美術館をイメージし、美しい景観作りにも力を入れていきます。

桜の癒やしは屋間だけではありません。夜になるとライトアップで見事な夜桜が浮かびます。出会いの春。いいことがたくさん訪れますように。(課長 松本啓介)

特別な節目

～ちゃんちゃんこに身を包み～



一人ひとり、誰もが迎えるお誕生日。そして、誰もが迎える人生の節目。

私達の人生の大先輩でもある、利用者の皆様が、お元気で迎えられるこの特別な日に立ち合えることは、私達にとっても、大変光栄で、大きな喜びです。

節目によって、色が変わるちゃんちゃんこに身を包み、どこか照れくさそうな表情を見せてくださいます。どんなにお年を重ねても、『生まれてよかった』。そう思ってもらえるよう、職員一丸となって、利用者の皆さんの尊い人生に寄り添い、邁進してまいります。(生活支援員 松本美理)

心も身体も健康に

音楽の力

まがたまでは月に1、2回、音楽療法士の金築朋子先生をお招きし、利用者様に音楽療法をしていただいております。

音楽療法には様々の効果があります。歌う事や、音楽に合わせて手や足、身体を動かすことで発語を促したり、ジェスチャーなどで意思を伝達する能力を向上させる効果などがあります。

金築先生のピアノ演奏で昭和歌謡や童謡などを歌われたり利用者様と一緒に歌われたり体を動かしたりされます。『バラが咲いた』ではスカーフを手に持ちギューッと握ったり、開いたりを繰り返して、スカーフがバラが咲いたように広がります。

音楽療法



また、歌詞に合わせて手話をしながら歌を歌い、耳が聞こえづらな方も参加できるプログラムも組まれております。身体や指を使った手話で歌う歌には、歌詞のひとつひとつに思いを込められています。

利用者様は笑顔になり楽しんでおられました。(生活支援員 今井宏幸)

新たな力夕子

ハウスに咲く笑顔



12月新たな活動場所として「しいたけハウス」が完成しました。

今後は、菌床しいたけの育成を行い上口福祉会及び、地域向け販売を予定しております。

菌床を設置する棚などは利用者様と一緒に運んで設置を行いました。菌床には多くの水が必要となります。

日々の活動として菌床への水やり作業、運搬作業は利用者様に参加していただいております。

今後利用者さまに合わせて作業を模索していき、それぞれの得意な作業を見つけていただければと思います。

得意なことが見つければそれだけ次の得意な作業に繋げていただきたい。そして何より自信を持って作業に当たっていただきたい。それが私達、生産活動班の根源であり信念でありたいと思います。

陽春、人にとっても植物にとっても、すべての生き物に心地よい季節です。利用者さまとの作業も心地よく「しいたけハウス」でもたくさん笑顔が花咲くと嬉しです。

今後とも生産活動をより楽しく利用者さまと歩んでいきたいと思えます。(班長 坂根亮)